

41st ESMO Congress 2016

第41回欧州癌治療学会会議(ESMO: The European Society for Medical Oncology)が2016年10月7日～11日にデンマークのコペンハーゲンで開催された。本学会では最近がん領域を席卷している抗PD-1抗体薬の有効性が非小細胞肺癌での1次治療、頭頸部癌での2次治療で証明され、発表と同時にNew England Journal of Medicineにonline publishされるなど、日常診療を変えるインパクトのある発表があった。特に非小細胞肺癌におけるpembrolizumabの発表では会場に入れない人であふれ、市内は寒かったが学会は熱気に満ちていた。今回はPoster Discussionから本邦で行われた局所進行膵癌における化学放射線療法における導入化学療法の有効性に関するランダム化第II相試験と、Poster sessionより膵癌のsalvage lineでのレゴラフェニブの単アーム第II相試験に関する演題を選び概説する。

岡野 尚弘

杏林大学医学部腫瘍内科学教室助教

Poster Discussion

621PD

Randomized phase II study of S-1 and concurrent radiotherapy with versus without induction chemotherapy of gemcitabine for locally advanced pancreatic cancer (LAPC): Final analysis of JCOG1106.
T. Ioka (Japan clinical oncology group, Japan)

局所進行膵癌に対するS-1併用放射線療法におけるgemcitabine導入化学療法の意義に関するランダム化第II相試験：JCOG1106の最終解析

Japan Clinical Oncology Group(JCOG)は最初からS-1併用化学放射線療法(CRT)を行う群(A群)とgemcitabine(GEM)による導入化学療法を3ヵ月施行した後にS-1併用CRTを行う群(B群)とを比較するランダム化第II相試験(JCOG1106試験)を実施し、その最終解析結果が発表された。JCOG1106試験の主要評価項目は全生存期間(OS)で、臨床的仮説を「A群に対するB群のハザード比が点推定値で1.186を超えて劣っていない場合には、B群をより有望な治療であると判断する」とした。ASCO 2015で主たる解析が発表され、OSにおけるA群に対するB群のハザード比は1.16と主要評価項目を達成した。両群とも忍容性は良好であったが、Grade3以上の消化器毒性はA群で多い傾向にあり、さ

らにA群では2例の治療関連死を認めていた。

本試験の主な適格規準は、20歳以上80歳以下、局所進行膵癌、ECOG performance status 0または1、原発巣とリンパ節転移が10cm×10cmの範囲内であること、胸腹水がない、消化性潰瘍と消化管浸潤を認めない、他がん腫に対する治療歴がない、適切な臓器機能を有する、であった。登録期間は2011年12月から2013年9月までで、ASCO 2015で1年フォローアップの結果が発表され、本発表は2年フォローアップでの最終解析である。A群に51例、B群に49例が登録された。A群で治療関連死を3例に認め、内訳は肺炎、十二指腸出血、胆道感染、それぞれ1例ずつであった。主要評価項目であるOSにおいて、中央値はA群 19.0ヵ月、